

第1回 水道事業の持続性向上有識者会議 議事要旨

1 開催日時

令和7年10月7日（火曜日） 10時00分～12時20分

2 開催場所

大阪市中央公会堂 3F 小集会室

3 出席者

（委員）伊藤委員、水上委員、中村委員、熊谷委員

（水道局）坂本局長、田中理事、江原工務部長、大塚企画担当部長、米澤企画課長、
柿田経理課長、木内計画課長

4 議 題

- （1）有識者会議の進め方
- （2）大阪市水道事業の概要、現行経営戦略の概要等、他都市比較による大阪市の特徴について
- （3）サービス向上や経営効率化策のこれまでの主な取組
- （4）現状の収支見通し
- （5）水道事業を取巻く状況に関する広報について

5 議事要旨

- （1）座長、座長代理の選出について
 - ・ 互選により伊藤委員が座長に就任し、水上委員が座長代理の指名を受けた。
- （2）議題について
 - ・ 事務局より、議題の項目について説明を行った。

（委員からの主な意見等）

大阪市水道事業の概要、現行経営戦略の概要等、他都市比較による大阪市水道局の特徴について

- ・ これまでは、水道施設の更新を抑えることで黒字を維持してこれたが、今後、人口が大幅に減少する社会になるという前提で水道事業を考える必要がある。
- ・ 管路更新率について、全国平均よりは高いとはいえ、全ての管路更新を行うには100年以上かかることになる。大阪市も危機感をもってペースアップに取り組んでいく必要があると思う。

サービス向上や経営効率化策のこれまでの主な取組について

- 経営の効率化を図るために、全国的には水道事業体の職員の数が大幅に減少してきている。
大阪市においても効率化はこれまで十分にしてきたと思われる。
- 官民連携といっても、人手不足については、受託側の民間企業においても同様の状況にあることにも留意すべきである。

現状の収支見通しについて

- 水道事業の収支は設備投資を抑えれば簡単に黒字化するもの。現状の収支とその見通しは、現在の更新率での黒字であることを認識すべき。
- 企業債残高について、絶対的に安全とか危険な水準を定めるのは容易ではないが、経営の方針として、給水収益に対する企業債残高の割合や上限のルールを定めるのが妥当である。
- 資本的支出とされている項目の内容を精査して、支出の効果が将来に及ばないものについて、見直すことも検討してほしい。
- 水道施設の更新に要する経費や企業債の償還の資金については、将来にわたり安定的に積み立てることについて検討してはどうか。

水道事業を取巻く状況に関する広報について

- 水道事業の広報については、安全・安心であることが強調されがちであるが、宣伝・PR的な側面が強い。実際には課題やウィークポイントもあり、このような点も伝える姿勢が重要である。正直こそが最良の戦略だと考える。
- 正直に実際の姿を伝える本来の広報を充実し、その上で、広告・宣伝と段階を踏むべきと考える。
- 若年層、大学生向けの啓発については、将来に向けて、インフラ事業の大切さを理解し、担い手となる若者が増えることにもつながると思うのでぜひやっていただきたい。